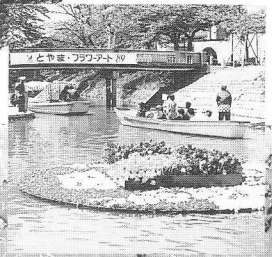
■'97街づくりキャンペーン

松川河畔と城址公園で花と緑のイベントを！



■出席者（順不同）

埴生雅章さん
（全国都市緑化とやまフェア事務局　施設部長）

佐近成昭さん
（富山市観光物産課　係長）

坂井貞彦さん
（富山市農業センター所長）

樋掛辰巳さん
（富山県花卉球根農業協同組合参事）

野沢昭男さん
（富山中央花き園芸㈱　取締役主管）

北山直人さん
（有）北山ナーセリー　社長）

■司会

中村孝一
（月刊グッドラック発行人兼編集長）

司会　今から7～8年前に、富山県の当時の農産園芸課（現在の生産振興課）の主催で、松川にチューリップの花を浮かべる「フラワーアート」というイベントがありました。これは、その前年に、銀座のみゆき通りで、チューリップの花びらを絨毯のように敷きつめるイベントを実施されて大変好評だったそうで、県外でPRするのも一つだけれど、県都富山市でもやった方がいいということで企画されたと当時の課長さんから伺っております。それと、ちょうど松川に遊覧船が浮かぶということで、遊覧船から見る水辺の花も綺麗なのではないか、ということもあったそうです。

　当時の構想としては、県として3年間予算を取って、何とかその3年の間に民間をうまく巻き込んで、大きなイベントに育てていければと考えておられたようです。ところが、民間の方に話がうまく伝わらなかったのか、3年で終わってしまった訳です。今年、全国的な規模の緑化祭が富山県で開催されましたが、お話をお聞きしますと、単なる一過性のイベントで終わるのでは意味がない。これを一つの起爆剤として、富山県の花と緑を増やしていきたいし、そういったイベントをあちこちでやって貰いたい、と。

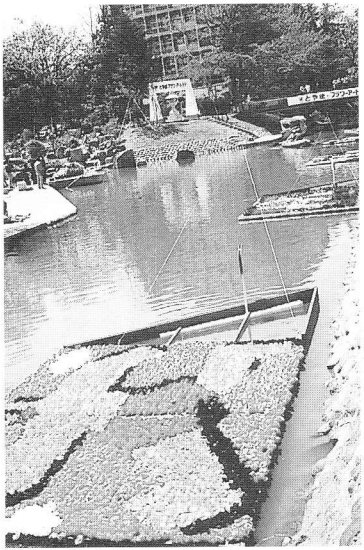
　それをお聞きしてまして、そういえば、過去に松川でフラワーアートというイベントがあったと。3年間で終わりましたけれども、今度は民間の方にうまく参加頂いて、一回で終わるのではなく、最初は小さく産んでも、年々大きなものにしていけないものだろうか。ということで、今日は皆様のお知恵を頂けないかということで座談会を開かせて頂きました。

　まず、埴生さんの方から、緑化祭の報告も兼ねてお願いします。

●成功のための3要素●

埴生　皆さん方の大変なご協力を頂きまして、何とか無事終わりほっとしております。ご協力いただいた方々、有り難うございました。今後、この緑化祭からどんどん芽が出てきて、それらが育っていくことを願っている訳ですけれども、もうごく当たり前のことなのかも知れませんが、3点述べたいと思います。

　まず、1点目は、参加の為の仕組みづくりをきちっとやるのが重要だと思います。民間の様々な業界や団体の方が出やすい仕掛けを作らなければならないと思います。今回の緑化祭で



松川に花のジュータンが続く/'89・フラワーアート

爽やかな風に吹かれて水辺の花を楽しむ

朝日印刷紙器㈱

埴生雅章さん

は、県民参加の面では非常にたくさんの方に出て頂いて良かったのですが、民間の方が出やすい仕掛けという面では、今一つだったように思います。

2点目は、他にない魅力溢れる会場を作ることが大切です。今は皆さんの目が肥えてきてま

すから、ユニークな良いものを作らないと来て頂けない。その為には、知恵を持っておられる方々に集まって頂く形で、知恵を出すシステムを作ることも必要でしょう。

3点目は、「是非その時期には、あそこにいかなきゃ」というような、お客さんが集まるための仕掛け作りが必要だろうと。

極めて当たり前の話ですが、そういったことをきちんと積み上げていくことが大切だと思いますね。

●大きく育った砺波のチューリップフェア●

司会　砺波市のチューリップフェアは、確か40回を越えているんですよね。

樋掛　ええ。来年で46回目になります。伝え聞くところでは、第1回目のチューリップフェアは、終戦後間もない頃、私共の組合の先人の方々と、当時の試験場の場長さんが、私共の事務所前の田んぼを借り、いろんな品種のチューリップを植えて、皆さんに見て頂こうということで開かれたそうです。ですから、生産団体と、チューリップの試験・研究をしている人達が協力して始めたイベント、ということになりますね。

現在の公園が出来る前は、そこに果樹の試験場があり、たくさんの果樹が植えられていたんですが、それが魚津の方に移転されることになり、それを機会に、砺波市がその場所をチューリップ公園として造成したんですね。しかし、最初の頃は、石が多く、機械が傷んだりと大変でしたね。

これまで、私共がチューリップの植え込みや管理を、市の方から任されていることもあって、お客様からいろいろな注文を頂きましたし、今でも頂いております。それにお応えして、できるだけ満足して頂けるように、毎年毎年工夫を重ねて、現在に至っているという現状です。

司会　大変な積み重ねがあったんですね。今のような姿になったのは、いつごろですか。

樋掛　十数年前でしょうか。木々も大きくなり、落ち着いた雰囲気になってきましたね。

樋掛辰巳さん

●世界一のフラワーショー●

司会　北山社長は、世界中の花のイベントをご覧になっておられるそうですが。

北山　特にヨーロッパでは、各都市でフラワーショーが行われていますね。その中でも、一番代表的なものは、イギリスの「チェルシーフラワーショー」だと

北山直人さん

思います。

これは、既に82回も開催されているんですね。もともと、戦争から帰ってきた負傷兵の為のチャリティーで始まったんです。ですから、当初から、会場はロンドン郊外・チェルシーの陸軍病院の前庭に設けられています。RHSという協会が主催して、その会員が展示を行っています。

世界には、もっと広いスペースで展示をしているフラワーショーもあるんですが、チェルシーのものは、一番歴史もあるし、内容も充実しているんです。

5月の数日間、約3000坪ぐらいの大テントを中心に、各業者が自慢の植物を飾り込んで展示するんですが、その中には、長いもので3年も前から準備をしているものもあるそうです。テントの周りには、坪庭のように小さなものから、家庭菜園とか、ベランダ、プランターのようなものまでいろんなものの展示があって、そういったものは1週間から10日かけて作られるんです。会期中には、新しい商品や技術の発表もありますね。

初日にはエリザベス女王も訪れ、その後、審査が行われるんです。そして、優れているものには、ゴールドメダルやシルバーメダルといった賞が与えられるんです。

「チェルシーでゴールドをとった」ということは、お金や賞品に代えられない、大変な箔になるので、皆さんは、その名誉を得るため、競って最高のものを見せようと努力されるんですね。最終日には、展示されていたものの即売もあります。

今は来場者が増え過ぎて、入場制限をしている程で、大変魅力的なイベントに育っているんですね。

司会　今、お話を聞いてますと、そういうのを富山で開催できたら、素晴らしいと思いますね。

佐近　そうですね。素晴らしいと思います。私共の観光物産課は、観光面に携わっているので、そういった花の方面は本来門外漢なのですが、昨年まで実施していた事業に、城址公園のお掘りでの「コイフェスティバル」というのがありまして、これに砺波の方にもご協力頂きまして、チューリップをコイの格好をさせてお掘りの中に置く、というイベントをやっていました。これが、花とのかかわりの中で私共がやっていた唯一のものかなと。今聞いてますと、やはり花を使ったイベントというのは確かに興味をそそられるところがありますね。

司会　水橋地区では、富山の花の名産として、カラーに力を入れておられますね。

坂井　そうですね。実は、カラーは、富山市に花の市場を作った当時、市内には花の生産がほとんどなく、何を生産すればよいかということでカラーが選ばれたんですね。

佐近威昭さん

基本的に、2月から6月まで、切り花として出荷されているのですが、これを栽培の仕方によって、秋にも咲かせれないか、といった研究もしております。

課題は、現在の栽培面積が約2ヘクタールと少なく、PRに回す分まで十分確保できていな

いことで、まず生産量を増やすことが先ではないかと思います。

司会 花市場の野沢さんはどう思われますか。

野沢 私は、生産量の問題もそうでしょうが、観光の面から考えて果して相応しい花なのかということも一度考えてみる必要があると思うんです。チューリップと比べてどうなのか、ということですね。

●目指せ、ガーデンシティ！●

司会 その場合、園芸でいくか、観光でいくか、両方でいくか。

北山 富山の特徴に持ち家率が高い、ということがありますが、これはすなわち庭があるということですね。公的な公園もあるけれど、各家庭にも庭がある。これは凄い財産だと思います。地域全体として庭になっている訳ですから。富山県が花と緑の日本一を目指すのなら、「富山市は、ガーデンシティだよ」と。それぐらい言える街づくりを目指すべきですね。

観光面でも訴え易いと思いま

野 沢 敏 男さん

それと、松川・城址公園で花と緑のイベントをやられるにしても、最初に予算をどのように確保するかということをしっかりしておかないと、話が先に進まないと思いますね。2月の冬のフェスティバルの場合は、各業界の皆さん方がスポンサーになったりして、案外安定しているんです。やっぱりやり方次第だと思います。

イドの共鳴を頂かなければなりません。次に予算面。そして、3つ目には新しい企画。これらのひとつが抜けてもイベントは中々成功しない、というのが私自身の経験から思いますね。例えば、4月のチンドン、8月の富山まつりなんかと一緒にやっていくというのも一つではないでしょうか。

樋掛 以前、私がベルギーに行った時に、通りに沿って八重桜が植えられていて、その下に真っ赤なチューリップが咲いていたんですが、見事でした。そういった光景が、松川河畔や城址公園で見られるようになると素晴らしいでしょうね。

埴生 演出の仕方としては、あまり人工的に見せるのでなく自然に感じられるといいですね。

野沢 課外授業的な面から、各小学校に呼びかけて、教材として、あるいは、自分達の作った

坂 井 貞 彦さん

ものがみんなに見て貰えるんだといった形で、日頃の管理をしてもらうとか、老人会の人達だとか、そういったことも考えられますね。

予算も、観光、農林、河川といった部署に関係なく、各方面から少しずつ出して頂ければ、チリも積もればで、案外それなりの形にもなるかもしれません。まず、組織づくり、人づくりを各方面でやって頂けるよう、グッドラックで呼びかけて欲しいですね。

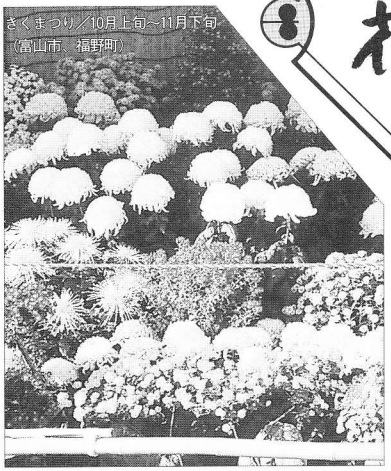
司会　非常に貴重な意見を頂きまして有り難うございました。今後とも皆様のご意見を頂戴しながら、準備を整えていきたいと思います。

県内各地の花まつり

○富山市の後まつりに合わせて行われる
金日本チンドンコンクール／4月

あじさいまつり／6月下旬～7月上旬（小杉町太閤山ランド他）

菖蒲祭り／6月
（小矢部市、砺波市他）



さくまつり／10月上旬～11月下旬
（富山市、福野町）

さなみチューリップフェア／4月下旬～5月上旬

※写真は一部イベント会場と異なるものがございます。

サクラパックス㈱